

Namaste

# お釈迦様の ほほえみ



14

時宗布教伝道研究所員 小田 義宗

今回は浄土門に属する時宗檀信徒にとって大切な場所である「マトゥーラ」という町のお話です。

この町はインドの首都デリーとタージマハルで有名なアグラの中間に位置する町で、お釈迦様に関する有名な遺跡等はありません。

しかしそれならばこの町がなぜ時宗檀信徒にとって大切なのかといえますと、ここは『世界最古の阿弥陀仏像』が発掘され



た場所だからです。

この町は、『阿弥陀仏誕生の地・浄土信仰の発祥興隆の地』ともいえる「南無阿弥陀仏」を称える時宗檀信徒にとっての最高の聖地の一つなのです。

ちなみにその発掘（一九七九年）された仏像は、現在同地の博物館に展示されています（上写真）。残念ながら現存するのは台座と足の一部のみです。像下の茶色のプレートには「阿弥陀仏の台座と彫刻されたもの、西暦一〇四年造」とあります。

インドで仏像が造られる以前は、仏の存在は法輪・菩提樹・仏足石などによって象徴的に表現されてきました。その後数世紀が経過すると、西北インドのガンダーラ地方や初轉法輪の地・サールナート地方そして今回紹

介したマトゥーラ地方の三つの

地域で仏像が盛んに造られるようになりまます。特にこのマトゥーラは古代インドマウリヤ朝・グプタ朝期（紀元前三世紀～紀元後一世紀頃）において仏像美術の町と称されるほどで、この阿弥陀仏像の発見により、その信仰がその頃にはインド仏教の中で確立されたものであったことが偲ばれます。

そしてもう一つ皆さんに知っておいて欲しいことがあります。日本における仏教伝来は、百済の聖明王から欽明天皇に『天竺三インド地方のこと』から百済に伝えられた仏像』が贈られた五三八年と五五二年の両説があります。この時に贈られたその仏像も「阿弥陀如来像」であり『日本最古の仏像』とされ

ています。

なお、『日本最古の仏像』については信濃善光寺本尊の阿弥陀三尊像（秘仏）や飛鳥寺本尊の釈迦如来像（飛鳥大仏）など諸説あります。

このように日本では仏教伝来と共に『阿弥陀仏』は存在していたのですが、仏教発祥の地であるインドで阿弥陀仏とその信仰が確立していくのは、お釈迦様が亡くなられてから約五百年の歳月を経てからとなりました。

しかし仏教が民族を越え、伝播し、世界宗教として確立するために阿弥陀仏信仰がこの時期に果たした役割はとても重要なものであったと推測します。この町でその起源を感じ取ることができたことは、私にとって大

きな感激でした。

そして最後になります。この仏像はなぜ台座しか発見されなかったのか、疑問に思われませんか？それは古来より仏教徒が多く生活し、たくさん寺院が建立され独自の仏像様式が生まれたこの町も、八世紀頃よりヒンドゥー教に勢力が取って替わられていく中の一〇一七年に、イスラム系ガズニー朝による侵攻で街は蹂躪され、寺院や彫像が破壊し尽くされたことが原因とされています。

この仏像からは、今なお続く人間の愚かさの一端も垣間見ることができました。

